



西脇市議会議長  
林 晴信



■議会報告会は上手くいかないもの?

「議会報告会って面倒くさい割に成果がないじゃないですか」  
先日もそんな声を聞かせてもらいました。

そういえば、議会報告会（議会として市民との意見交換会を含む）を開催してもなかなか政策提言にまで結びつかないという声は複数あります。研修でもよく聞きます。

以前は開催して

いたが、参加者の固定化や出る意見もクレームか要望ばかりで止めてしまつたという声も同じくよく聞きます。以前にもこの紙面に書いたように議会報告会が万能なわけでもないし、開催しているだけで議会改革が進んだり、住民の信頼度が増すなんることはまずありません。それどころか、形だけの開催や慣性で開催していく逆に住民の信頼を損ねてしまう危険性すらあります。

議会報告会は何のために行うのか。いま一度その意味を考える必要があるのではないかと思っています。恐らく議会報告会を初めて開催してから随分と時間の経つ議会も多く、当初の熱を保っている議員も少なくなってきたのではないかと感じます。西脇市議会でも議会改革の経緯を知らない議員も随分と増えてきました。

## 共有からの共感、そして共創へ

西脇市議会の例を

告会に500人くらい来るので、議会報告会の必要がない」と視察に来て私に自慢して帰る議員さんなどいるのかもしれません。

西脇市議会でも、議会報告会（名称は議会と語ろう会）を開催してすぐに政策提言に昇華できるものや所管事務調査に位置付けられるものは実は少ないです。では、議会報告会の効用とはどこにあるのでしょうか。

■議会報告会とは課題共有の場  
議会報告会の効用に、意見・情報の「共有」があります。会場で出た意見は市民や複数の議員で最初から共有している状態にあります。西脇市議会の常任委員会での議案審議などでも「そういえば昨年11月の〇〇地区での議会報告でこんな意見も出ていた」という発言を聞くことがあります。意識せずに議員たち

議会報告会で出た消防団の車両購入費の地元負担軽減について、議会で提案したのがつい最近の令和4年9月定例会で令和5年度予算反映されています。さすがにこれは時間がかかり過ぎの極端な例だとは思いますが、その時に共感が生まれなくとも何度も問題提起されるうちに共感が生まれることがあるという好例であります。

そして、実はこの共有からの共感そして共創へと繋がることが、議論のヒロバたる議会本来の姿ではないでしょうか。市民意見が起点、そして課題の共有から管内調査や市外視察で共感を育み知見を磨き、討議での共創による政策づくり。多くの議会が目指しているのは、こういうカタチではないかと思います。そんなことを頭において議会報告会に臨むと、いつもと違つて見せるものがきっとあるはずです。

も言つていると思うのですが、同じ議会報告会でその意見の内容を他の議員も聞いていたので、よく知つているということが大事なのです。共有ができるれば、次のステップの「共感」が生まれやすくなりります。市で発生している事実からの課題共有、そして「何とかしなければ」という共感が広がれば、さらにその先には課題解決のための政策づくり、つまりスタイルを取り入れ、そんなことも少なくなりましたが、現在だとファシリティーターの技量不足もあり、雑談に終始してしまって、帰る時に「今日は何の話し合いをしたんだっけ」となることもあるのではと思います。開催するだけで何かやった気になってしまうことが、ワーキングトップの落し穴でもあります。

そんなことから、前述の政策提言に繋がらないだとか、議会報告会そのものを止めてしまったとか、「私個人の市政報

感」が再燃するものが結構あると思っていました。試しに議会報告会の報告書を作成しているなら、数年前のものを読み返してみるといいと思います。今と同じ課題があることに気づくはずです。